

身近にある自然災害

沖田 楽

今年の夏休みは、日本全国で地震や台風などの災害のニュースが数多く見られた。まず、8月8日の南海トラフ巨大地震を引き起こすような地震や8月11日の東北地方を直撃した台風6号、8月16日に起きた台風7号など、全国各地に多くの被害をもたらした。自分が住んでいる栗原市一迫は台風や地震が起これば、ほとんど被害はない。だが、

仙台法務局

同じ栗原で過去に大きな地震があったことを思い出した。それは平成20年6月14日に発生した岩手・宮城内陸地震。この地震で栗原はどのような状態だったのか、栗駒山麓ジオパークに行つて調べてきた。岩手・宮城内陸地震により、荒砥沢ダムの上部で幅900m、斜面長1300mの土塊が南東方向へ300m水平移動する巨大地すべりが起きた。マカニクド7.2、最大震度6強の地震。すべり落ちた箇所最大の落差は156m。35〜40階

建てのビルが、ふるりとすべり落ちてきよう  
 なもの。僕はそれを知ってゾッとした。この  
 地すべりが自分の住んでいる一迫で起きたら  
 と想像すると恐怖を感じた。  
 僕は一迫の長崎地区の区長をしている祖父  
 に、家の近くに災害が起きそうな場所がない  
 か聞いてみた。すると祖父は、栗原市防災マ  
 ップを開いて、  
 長崎は急傾斜地特別警戒区域が1ヶ所ある。  
 と言って指を差して教えてくれた。僕は初め

仙台法務局

て自分が住んでいる長崎にも危険な場所があ  
 ることを知った。その後、長崎地区以外の防  
 災マップを見てみた。すると、自分が思っ  
 いた以上に危険な場所があることを知った。  
 地すべり警戒区域や土石流警戒区域など、自  
 分が車で通った場所が警戒区域になっ  
 のを見て、僕は、  
 っ自分の知っている場所でも警戒区域になっ  
 ていて怖いなあ。  
 と感じた。

どんな場所が火害が起こりやすいのか、栗駒山麓ジオパークの資料によれば、土砂災害の要因のひとつに、崩れやすい地質の存在があげられていいる。栗駒火山や鬼首・鳴子火山から噴出した溶岩や火山灰、火砕流などの堆積物が広く分布して、それらはおよそ50万年前から数万年前にかけて噴出したもので、完全に固まりきっていないものも多く見られる。そのため、大きな地震のゆれに耐えることができず、多数の地すべりや斜面崩壊な

仙台法務局

とつながったと考えられている。崩れやすい地質ということが分かった今、どうしたら災害の備えができるか。また、一つ目は、災害が起きた時の避難経路や場所を把握しておくこと。これは一番大切で、6月に地域の人達といっしょに行った避難訓練の時に思った。二つ目は、災害によって、電気やガス、水道などが止まった時に困らない様に防災グッズを準備しておくこと。防災グッズは家には

たりので、これを機に準備したい。

三つ目は、ほかの地域で災害が起きた時、自分たちができる支援はあるのか。自分ができる支援は、避難場で食糧を配ったり、避難所で気持ちよく過ごせるようにそまじをすること。小さい子供たちが不安にならないように、一緒に遊んであげること。これなら、自分でもできると思うので、もし災害が起きた時は支援をしたいと思う。今

仙台法務局

身近な場所でも災害が起こりうる実態を詳しく知ることでできた。自然災害は、いつ起こるか分からない恐怖もあるが、自分にできることを考え、自然災害を乗り越えていきたい。